

みずほCustomer Desk Report 2017/09/07号(As of 2017/09/06)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	USD/CHF	公示仲値	108.64
TKY 9:00AM	108.61	1.1923	129.50	0.9537	GBP/USD	1.3038
SYD-NY High	109.39	1.1950	130.40	0.9582	AUD/USD	0.8021
SYD-NY Low	108.45	1.1904	129.37	0.9529		0.7963
NY 5:00 PM	109.24	1.1916	130.17	0.9564		0.8000
USD/JPY Volatility 1M ATM (NY Close Lvl)		8.99/9.395	△25RR	1.305	Yen Call Over	
NY DOW	21,807.64	54.33	債券市場	日本2年債	-0.1450	-
NASDAQ	6,393.31	17.74		日本10年債	0.0120	0.6bp
S&P	2,465.54	7.69		米国2年債	1.3021	1.2bp
日経平均	19,357.97	▲27.84		米国5年債	1.6841	4.3bp
TOPIX	1,592.00	▲1.29		米国10年債	2.1046	4.5bp
シカゴ日経先物	19,385.00	110.00		独10年債	0.3470	0.9bp
ロンドンFT	7,354.13	▲18.79		英10年債	1.0050	▲2.1bp
DAX	12,214.54	90.83		豪10年債	2.5990	▲7.5bp
ハンセン指数	27,613.76	▲127.59	為替市況	USD/CNH	6.5408	0.0000
上海総合	3,385.39	▲1.07		ドルインデックス	92.29	0.04
USDJPY 3M Vol	9.25	▲0.40%	商品市況	CRB指数	183.000	0.66
USDJPY 6M Vol	9.54	▲0.25%		NY金	1,339.00	▲5.50
EURJPY 3M Vol	9.46	▲0.11%		WTI	49.16	0.50
EURJPY 6M Vol	9.86	▲0.07%		Dubai Spot	52.40	1.25

東京
東京時間オープン前にカブタン・ダラス連銀総裁(投票権あり)より「ハランスートの縮小、できるだけ早く開始すべき」、「中立的なFF金利、3.00%よりも2.25%にかなり近いなどの発言が見られたものの、すでに前日海外時間にFed高官からト派的の発言が見られていた為か、マーケットの反応は限定的。かかる中、東京時間のドル円は108.61レベルでオープン、オープン直後に一時東京時間安値となる108.51をつけたものの、同水準は底堅く次第に反発する展開。しかし、積極的にドル円を買い進める材料にも乏しく、引き続き上値を押しえられると108.70辺りで揉み合い推移が続き、108.76レベルで海外市場に渡った。豪ドルは0.8007レベルで東京時間オープン、豪4-6月期GDP(前期比)発表を控えて徐々に豪ドル買い優勢の展開となるも、同指標が市場予想比弱めの数字となると、0.7980辺りまで下落した。結局、0.7986レベルで海外市場に渡った。(東京15:30)

ロンドン
ロンドン市場のドル円は108.76レベルでオープン、北朝鮮でマグニチュード6.3の地震が観測されたとの出所不明のツイートで核実験が連想され、108.45まで一時的に下落する。しかしながら、前回の核実験時がツイートされただけの誤報との見方に落ち着くと、買戻しが入り、108.88レベルでNYに渡った。ユーロは1.1920レベルでオープン、独銀が株式や債券、不動産などで資産価格バブルがみられるとし、ECBIに金融政策の変更を要請したことや、イタリ財務省が今月発表する経済見通しで今年の経済成長率予想を1.1%から1.4%あるいは1.5%に引き上げる予定との政府関係者の発言を受け、1.1950まで上昇。1.1932レベルでNYに渡った。ポンドは1.3029レベルでオープン、フランス政府が自国及び海外領土での石油・ガスの探査と生産を段階的に取り止めることを法制化する方針を示したことで、供給縮小観測から北海産原油が上昇、ポンドは1.3053まで買われ、1.3044レベルでNYに渡った。(ロンドン17:00)

ニューヨーク
海外市場のドル円は108台後半での方向感に欠ける推移となり、108.88レベルでNYオープン、朝方発表された7月貿易収支は貿易赤字幅が前月からやや拡大したが、市場の反応は限定的。プラス圏で寄り付いた米株を横目にドル円は上値を試す展開となり、109.00を上抜けて109.18まで上昇。但し、この水準ではドル売り意欲も強く、また「フィッシャーFRB副議長(任期は2018年6月12日)、10月半ばに辞任へ」との報道を受けて、インFRB議長の任期を来年2月に控える中で副議長もこのタイミングで不在になることによりFRBの政策運営に不透明感が増すとの見方から、ドル円は108.71まで反落した。しかし、「ハリーマン被害救済法案に、12月15日までの債務上限引き上げと政府運営資金の確保を組み合わせることと合意した」との報道が伝わり米金利が上昇すると、ドル円も109円台に上昇。その後、発表された米地区連銀経済報告(ベージュブック)は全12地区で緩やかに拡大したと指摘する一方で、自動車産業の鈍化を懸念する強弱入り混じる内容となり、市場への影響は限定的。ドル円はその後109円台前半で底堅く推移し、一時高値となる109.39まで上昇して109.24レベルでクロスした。一方、ユーロは1.1932レベルでNYオープン、朝方は1.1950まで上昇する場面もあったが、ECB理事会を控えて上値を迫る展開とはならず、その後は米債務上限に関する報道を受けて米金利上昇と共にドル買いが強まると、1.1908まで下落して1.1916レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当: 鶴田・西谷

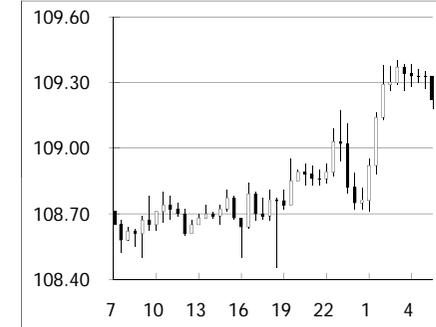
【昨日の指標等】

Date	Time	米	Event	結果	予想
9月6日	8:00	米	カブタン・ダラス連銀総裁 講演	-	-
	10:30	豪	GDP(前期比/前年比)	2Q 0.8%/1.8%	0.9%/1.9%
	20:00	米	MBA住宅ローン申請指数	-	3.3%
	21:30	米	貿易収支	7月 -44.7B	-44.7B
	21:30	米	マークイットサービス業/コンポジットPMI	8月 56.0/55.3	56.9/-
	23:00	加	BOC政策金利発表	-	1.00%
	23:00	米	ISM非製造業景況感指数	8月 55.3	55.6
9月7日	3:00	米	ベージュブック公表	-	-

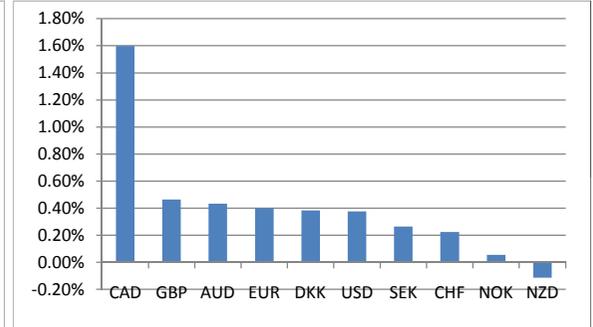
【本日の予定】

Date	Time	日	Event	予想	前回
9月7日	8:50	日	対内・対外証券投資	-	-
	10:30	豪	貿易収支	7月 A\$1000M	A\$856M
	20:45	欧	ECB理事会 政策金利発表	-	0.00%
	21:30	欧	ドラギECB総裁 会見	-	-
9月8日	1:15	米	メスター・クリーブランド連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	108.60-109.80	1.1850-1.2000	129.00-131.00

【マーケット・インプレッション】

昨日のドル/円相場は上昇した。引き続き北朝鮮情勢を巡る地政学リスクが意識される中で東京時間のドル/円は108円台半ばでの横這い。海外時間に入り徐々に値を戻す中、「トランプ氏と民主党政権部が被害救済の歳出と債務上限を12月15日まで延長する抱き合わせ法案で合意した」とのヘッドラインも相俟ってドル/円は一時109.39まで上昇。その後も109円台前半での推移が続き本日を迎えている。本日のドル/円は一定のレンジ内での底堅い展開を予想する。本日はECB理事会を予定しているものの、ドル/円相場のドライバーとなるような経済指標などの発表は予定しておらず、かかるECB理事会も近時ECB関係者より10月まで政策変更に関する決定がなされる公算は低いとの認識が示されており、特段目新しい材料が示される可能性は低そう。かかる状況下、北朝鮮関連のヘッドラインにドル/円が急落する展開には引き続き注意は必要ではあるものの、基本的には昨日からの流れの中で底堅い展開を予想する。